

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.100		六甲山東お多福山		生物地理区分		アカマツ林	
				地域区分		都市周辺	
所在地	都道府県	兵庫県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市町村	神戸市・芦屋市		4.低地	5.その他		
	集落名称等	東お多福山草原	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
		4.畑		5.小川・水路	6.ため池		
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素 (対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの : それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国立公園	兵庫県レッドリスト 2010 植物群落 Bランク
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
ススキ、オミナエシ、ツリガネニンジン、オトギリソウ	



撮影時期：1974年10月
 写真の説明：ススキが優勢で、草原性植物が豊かであった頃の東お多福山（故 矢野悟道博士撮影。兵庫県立人と自然の博物館収蔵。）



撮影時期：2004年4月
 写真の説明：ネザサが優占してしまい、草原性植物が激減してしまった東お多福山。

NO.100		六甲山東お多福山		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	兵庫県			2.団体・企業・学校等
	市町村	神戸市・芦屋市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	東お多福山草原			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	市民グループ：東お多福山草原保全・再生研究会（ブナを植える会、日本山岳会関西支部自然保護委員会、芦屋森の会 2001、六甲楽学会、あいな里山茅葺き同人、こうべ森の学校、神戸植生研究会）
	その他の主体の名称	東お多福山草原保全・再生協議会：市民グループ、研究者、行政機関（兵庫県（神戸県民局、阪神南県民局）、神戸市（環境局、森林整備事務所）、環境省近畿地方環境事務所神戸自然保護官事務所）

目的 ：主 ：その他	5. 地域の良好な景観の保全・修復	
	取組内容	1940年代までは採草地として管理され、草原生植物の多様なススキ草原として維持されていたが、その後の管理放棄により種多様性の極めて低いネザサ草原へと遷移し、著しく生物多様性が低下している。 草原内に調査区を設置し刈取実験を開始、定期的刈り取りによる草原生植物の再生効果の検証によるススキ草原再生実験を進めている。
	7. その他	
	取組内容	・普及・教育活動：平成 22 年 8 月に東お多福山草原保全・再生フォーラムを、同年 12 月に一般市民向けの刈り取り体験セミナーを実施。 ・活動資金：各参画団体の自己資金に加え、瀬戸内オリブ基金(平成 19～22 年度)、社団法人兵庫県緑化推進協会(平成 23 年度。平成 25 年度まで予定)からの助成を受けている。

連携・協働による取組内容・役割分担等	市民グループ、NPO：草原でのネザサの刈り取り 専門家：管理指導、生物多様性調査の実施及び指導 行政：活動地での許可(環境省：土地管理者)、広報など 【東お多福山草原保全・再生協議会の実施】 ・東お多福山に関係する市民グループおよび研究者、行政機関との円滑な協働を図るための協議会を定期的実施
--------------------	--

取組の特徴や強調したい点	<p>六甲山系東お多福山草原を草原生植物豊かなススキ草原に再生し、生物多様性の保全を図ることで、その魅力や教材としての価値が高まることが望まれる。</p> <p>都市近郊の強みを活かし、環境学習の場、レクリエーションの場、阪神地域の茅葺き民家文化財へのカヤ供給地として持続的に利用することを目的としている。</p> <p>行政の呼びかけではなく、市民グループが自主的に連携をすすめているが、このように市民参加型の管理、調査が実施しやすいことも利点であり、今後活動の幅が広がることが期待される。</p> <p><都市と生物多様性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市に近接しており、利便性が高い立地条件であり、都市住民が保全活動に参加したり、環境学習・レクリエーションの場として活用したりすることが容易。 <p><二次的自然の保全・再生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理放棄が約 50 年と長期にわたる草原を再生しようとする試みであり、活動の成果が他地域の活動展開に参考となる。 <p><都市住民による多様な活動主体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつての管理主体ではなく、都市住民が主体となって再生活動に従事。 ・7つの市民グループの協働により、協調して活動を展開。 ・市民発議・主導の活動だが、行政との連携は密。良好な役割分担のもと実施。 <p><科学的検証を伴う保全活動の実践></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査区を設定し年 2 回の植生調査を行い、最適な管理方法を検証。
--------------	--

取組の概要	複数の市民グループの協働によるススキ草原の再生事業	課題グループ 景観文化 仕組
事例の特性	研究者を含む多様な主体の参加と連携(大都市近郊)	
取組の中で他の地域の参考となる点	管理放棄後 50 年以上経過したススキ草原を、市民グループ、研究者、行政が連携して再生する試みを開始。最適な管理方法を科学的に検証しつつ、都市近郊の強みを活かして都市住民が主体となった活動が進められている。	